

平成 30 年度 本科（第 55 期） 試験問題

【財務諸表論】

【解答に当たっての注意事項】

- 1 机上には、持込みが許可された筆記用具等以外は出さないでください。
《持込みが許可された筆記用具等》
ペン又はボールペン（インクの色は黒色のみとし、消せるものを除く。）
鉛筆又はシャープペンシル（芯の色は黒色のみとし、B 又は 2 B に限る。）
プラスチック製の消しゴム、鉛筆削り、定規
- 2 答案用紙の追加配付は行いません。
書き損じた場合は使用した筆記用具により次のとおり対応してください。
 - ・ ペン又はボールペン・・・定規を使い二重線で抹消すること。
 - ・ 鉛筆又はシャープペンシル・・・消しゴムできれいに消すこと。
- 3 答案用紙のホチキスは、外さないでください。
- 4 試験問題は、指示があるまで開かないでください。
- 5 試験問題の内容に関する質問には応じません。
印刷の不鮮明等がある場合には、試験開始後、静かに手を挙げてください。
- 6 注意事項に従わない答案や、解答欄を誤って記載した答案については、採点されない場合や、減点される場合があります。

【第1問】

会計に関する次の1から5までの記述について、正しい記述には「○」、誤っている記述には「×」を答案用紙の「正誤」欄に記入し、「×」を記入したときには「理由」欄にその理由を記入しなさい。

ただし、全て「○」又は「×」を記入したときには採点しない。

- 1 企業の発行する株式に投資する者を投資家といい、これには個人投資家と機関投資家がいる。
- 2 金融商品取引法会計上の財務諸表作成基準は一般に公正妥当と認められる会計基準である。この実質的な基準は企業会計原則と様々な個別テーマを規制する会計基準である。
- 3 会社法は株式会社における株主の有限責任を前提として、この株主の見地から会社財産の一定の維持を定めている。
- 4 代理人理論は資本等式を重視する点で所有主理論と共通性を持ち、企業主体理論との接点は全くない。
- 5 ソフトウェアは全て研究開発費に該当するので、発生した期間に全て費用計上する。

【第2問】

資産等に関して、次の1から4までの問に答えなさい。

- 1 受取債権の評価方法と貸倒引当金の設定方法について説明しなさい。
- 2 価格上昇期において先入先出法と後入先出法が損益計算及び貸借対照表の価額に与える影響について説明しなさい。
- 3 減価償却の本質を明らかにした上で、それに関連する廃棄法と取替法との相違点を指摘しなさい。
- 4 繰延資産の種類を指摘し、かつ資産化の根拠と実務上の処理との違いの理由について説明しなさい。

【第3問】

負債及び純資産に関して、次の1から4までの間に答えなさい。

- 1 負債をいくつかの見地から分類しなさい。
- 2 引当金計上の根拠を明らかにした上で、会社法及び税法の引当金並びに租税特別措置法の準備金の範囲について説明しなさい。
- 3 資本と利益の区別に関する2つの考え方について説明した上で、それに関連する資本取引と損益取引の意味について説明しなさい。
- 4 剰余金の配当財源を指摘した上で、それに対応して設定すべき準備金の設定方法について説明しなさい。

【第4問】

損益計算に関して、次の1から4までの間に答えなさい。

- 1 発生主義会計の特徴とその意義について説明しなさい。
- 2 製造業における売上原価の決定プロセスについて説明しなさい。
- 3 税効果会計の必要性和その基本的な考え方について説明しなさい。
- 4 損益法と財産法を説明した上で、それに関連する貸借対照表の位置づけについて説明しなさい。

【第5問】

一般原則に関して、次の1から3までの間に答えなさい。

- 1 保守主義の原則の意味とその具体的な適用について説明しなさい。
- 2 正規の簿記の要件を指摘し、正規の簿記の原則の性格について説明しなさい。
- 3 注記事項の中で重要な会計方針と重要な後発事象の具体例をそれぞれ2つ指摘しなさい。

【第6問】

財務諸表及び連結財務諸表に関して、次の1から4までの問に答えなさい。

- 1 附属明細表の内容と附属明細書の内容の違いについて説明しなさい。
- 2 包括主義に基づく期間利益と包括利益の違いについて説明しなさい。
- 3 非支配株主持分の貸借対照表における表示方法について説明しなさい。
- 4 連結株主資本等変動計算書において設定される構成要素を指摘した上で、個別財務諸表上の株主資本等変動計算書において設定される構成要素との違いについて説明しなさい。